



前提である条例改定もせず「廃園ありき」で突き進む 市政運営のあり方をただす「市民に寄り添うまちづくり」のために

市は、7月臨時議会で突然、「清和台幼稚園廃園に伴う牧の台みどりこども園への通園支援（1日1700円130日分230万1000円）」の補正予算を上程しました。廃園に必要な条例改正もしていないのに1家庭だけタクシード送迎するという異例の施策です。（たんぽぽだより前号で詳報）

こんなやり方が認められるのか？9月議会で私（黒田）は、「市民に寄り添うまちづくりの進め方」をテーマに、「廃園ありきで既成事実を積み上げ、無理やり強行するやり方は改めるべきだ」とたどりました。

通園支援費削除の修正案否決

条例改定なぜ遅らせたか

7月議会で共産党議員団は、市の提案に対し「通園支援費230万び管理に関する条例」の改定が必要と1千円削除の修正案を提出。7要です。

議員（黒田、北野、吉岡、津田、谷、吉富、斯波各議員）が賛成しましたが、改定前から保護者でしたが、他の議員が反対（議長会には「廃園は決まったもの」として）し、市の原案が賛成多数で説明してしまいました。

可決されました。

廃園ありき、

聞く耳持たぬが問題

そもそもその問題は、市は清和台幼稚園に「子どもが集まらない」として、今年4月に廃園計画の「説明会では正式な廃園を策定。地域への情報提供や園決定は議会の議決が必要と説明責任を果たさないうまま、強引に今年度末の廃園を進めていることです。「今秋の園児募集は早ければ善後策も検討できる」としていましたが、それも反故にしています。

その結果、「廃園にするが、公たつたこと」が繰り返された「もつ立幼稚園を強く要望する3歳児と早く条例改正提案があれば議の家庭があり、9月から1家庭でも対応策を検討できるのに、に牧の台みどり台こども園への保護者も議会も無視された」点をタクシード送迎費用を支援する」と指摘しました。

本来なら、保護者や地域住民に

情報を提供し説明をつくしたうえで、必要なら条例を改定し、廃園時期を決めて周知徹底。廃園の善後策を検討し、こどもの保育・教育を保障する手立てを講じるべきです。

保護者の要望は聞かずに

市は、「需要が減っているので廃園はやむを得ない」を繰り返してしま

しかし、市立幼稚園に対する「3

歳児保育や給食の実施と預かり保育の拡充を「通園バスを」など市民要望をまったく無視して、「廃園は決まったもの」を繰り返していき

地区には就学前の子どもが570人

います。本日は公立の幼稚園に通いたい、3歳児は入れず、給食もなし、私立は4歳児からでは入園を断られる。やむなく3歳児から私立にいれる、といったケースも多いのです。

市は、「私立幼稚園を誘致してき

た経過もある」として、市立に対する要望を聞こうとしませんが、私は、保護者・児童が市立か私立を自由に選べる条件を提供すべきではないか、と強く求めました。

「人生最高のスタート」理念に

現在、「第2期川西市子ども・子育て計画」が取り組まれています。「子どもたちに人生最高のスタート」を理念に、一人ひとりの子どもを真ん中においた取組みを進める

緊急要望出され条例は継続

8月31日付けで、東谷コミ

ニティ協議会より、市長及び教育長あて「東谷における市立認定こども園の整備について（緊急要望）」の写しが配布されました。

また、9月15日最終本会議

♪黄色いたんぽぽ
だよりでおなじみの黒田みちです～♪

自転車にのって、その時々々の市政の報告、皆さんのご意見を伺う「まちかどカフェ・トーク」その時々々の国政の

問題もアピール「たんぽぽだよりを読むといろんなことがよくわかる」と声をかけて頂き嬉しい限りです。さらにバージョンアップに全力！よろしくお祈りします！



黒田みち
元気に活動中😊



ぶれずに
粘り強く
がんばります

